

教員養成に対する理念及び認定課程設置の趣旨等

1. 大学としての教員養成に対する理念及び認定課程設置の趣旨等

名古屋芸術大学は、設立母体である学校法人名古屋自由学院が昭和 27 (1952) 年に滝子幼稚園を開設し、昭和 33 (1958) 年に名古屋自由学院幼稚園教員養成所を設置してから「至誠奉仕」を建学の精神として、私立大学では日本で最初の芸術系総合大学として昭和 45 (1970) 年に創設された。「至誠奉仕」は、「人間性の不断の陶冶と社会の要請に応え」る意味を持つ。

現在は、音楽学部、美術学部、デザイン学部、そして人間発達学部の芸術、教育系 4 研究科 4 学部体制となり、感性と創造力に富んだ人間の育成を目標とし、芸術文化ならびに人間発達の創造発展に寄与する人間の養成を目的としている。戦後の社会状況に対し、これからの社会を形成するためには、幼児の教育、さらには子どもたちを育てる教育者の養成こそ重要と考え、教職課程を設置した。また、芸術こそ人間形成の根幹の一つにあると考え、芸術系学部を設置し、中学生や高校生の思春期・青年期にある次世代とともに芸術文化を創造していくために教職課程を設置した。人間発達学部に保育士養成課程を置いていることも含め、大学全体として、生まれてから大学に入学するまでの人間の発達にかかわることができるように免許校種をそろえている。

本学における教員養成の理念は、本学の教育理念と目標である「幅広い知見と芸術的素養を備えた人を養成することで、人々の心を豊かにし、芸術文化の発展および地域・社会に貢献する」を基本姿勢としている。

本学の教職課程では、学部・学科における高度な専門教育と教職に関する科目を有機的に関連づけた履修指導を行い、教科に関する専門的知識と技能、学校現場で必要とされる授業実践力、そして生徒指導力を備え、教育の現場で活躍できる教員を育成することを目的としている。

2. 各学科の教員養成に対する理念及び設置の趣旨等

● 音楽学部 演奏学科 (中一種免(音楽)・高一種免(音楽))

本学音楽学部演奏学科の教員養成に対する理念は「大学としての教員養成に対する理念」にもとづき、音楽表現の手段の一つである演奏を通じて教育の現場で活躍することのできる有用な教員を養成することである。演奏技術は、芸術・文化・歴史・社会の様々な要素が含まれた知性・感性により成し得るもので、それらを兼ね備えた教員の養成を目指す。

演奏学科は、芸術を通じた人格形成を目指している。声楽、ピアノ、弦・管・打楽器、電子オルガンの演奏技術を学生に教授するとともに、この課程を通して学生が主体的に自己形成を計り、自身の意志のもと自律的に行動できる人格へと至ることを助成する。

こうした人格形成の中で教職課程に設置している科目を修得することにより、演奏を通じて教育の現場で活躍することのできる有用な教員を養成することが可能となる。演奏技術のみならず、その基礎となる和声、音楽を体感する上で基本的な能力(リズム・旋律など)となるソルフェージュを修得することは、多感で感受性豊かな中学校・高等学校の生徒に対して説得力のある教育の裏付けとなる。また、演奏技術を向上させる上で必要不可欠な合唱・合奏を修得することは、学校教育の中で、人との協調性、個人の考え方への理解、対応という点で有用なものとなる。

本学科ではこうした教員を養成し社会の発展に貢献するために教職課程を設置する。

● 音楽学部 音楽文化創造学科 (中一種免(音楽)・高一種免(音楽))

本学音楽学部音楽文化創造学科の教員養成に対する理念は「大学としての教員養成に対する理念」にもとづき、音楽文化の社会への還元という音楽文化創造学科のポリシーのもとで、音楽文化を媒介として人間関係の重要性を学習者に伝えられる教員を養成することである。音楽文化創造学科は、音楽教育、音楽療法、作曲、サウンド・メディア、ミュージカル、ジャズ・ポップス、アートマネジメントでの専門教育がなされ、それぞれの過去・現在・未来と社会とのつながりを学び、音楽文化を広く社会に伝えられ、そして創造力のある人間形成を目指している。本学科の教職課程において、日本の伝統音楽、世界の民族音楽を学ぶことは、それぞれの専門教育と有機的に結びつき、音楽文化の社会への還元の裏付けとなり、教育の現場においても、幅広い豊かな音楽教育の手段となり得る。また、中学校・高等学校の教育では、知識・理論のみならず、音楽表現の実践も重要なものであり、そのための声楽、器楽の実技科目を設置し、その修得の上で音楽の造詣を深めると共に、合唱、合奏によって得られる人との協調性、コミュニケーションの重要性を理解し、人間関係において社会的対応力を身に付ける。

それは、中学生・高校生の若い世代への教育に重要なものであり、音楽文化・芸術に加え人との関係を音楽を通じて伝えることにより、彼らの人間形成に寄与することができる。

本学科はこうした教員を養成し、音楽文化の社会への還元に貢献するために、教職課程を設置する。

● 美術学部美術学科 (中一種免(美術)・高一種免(美術・工芸))

本学部における教科教育は「美術実技とその企画等を通じ現代における美術的価値観と芸術的素養を備えた人材の育成」という実技教育を主体とする専門教育を基礎として構成されている。更に美術、工芸実技と関連させつつ「教職に関する科目」「教科に関する科目」等、教員養成にかかわる諸科目を履修、

その指導法を修得することで中学校・高等学校での美術(工芸・デザイン)教育の現場で活躍できる実践的で有用な教員を養成することを目的とする。

また、工芸の教科教育の理念と設置の趣旨も基本的に美術の教科教育と同様に、工芸技法(陶芸技法・ガラス技法)を中心に美術専門科目と教職・教科に関わる科目が一体となって構成されている。また、伝統工芸領域から現代工芸芸術領域にわたる「工芸」の方向性も各教科の中で深く考察されており、工芸芸術を通じ教育の現場で活躍できる有用な教員を養成することが可能となる。古来、「創作(もの創り)は感情の発露であり、また何かのため、という目的を持ち、造るべき計画を源に実現する」という人間の生活行為であった。しかしながら現代社会は、この本質を見失い、創作行為を二義的あるいは趣味的な存在へと押しやってきた。

本学部で進めてきた美術・工芸教育は、この本質的創作行為が人間社会でいかに大切かを認識し、人の感性とそこから生まれる「もの創り」を基本とした「実技制作とその企画・考察」を中心に置き、進められ、美術・工芸の教職・教科教育もその延長上にある。美術・工芸の専門的知識と、実技に優れた教員の資質は感受性豊かな中学・高等学校生徒の人間形成に寄与するものと確信する。

● デザイン学部デザイン学科（中一種免（美術）・高一種免（美術・工芸））

本学部は、大学の理念を踏まえて、真理を探究する、感性と理性の調和した人間性の成立と、広く社会的な貢献を学部の特性に合わせて展開している。デザインそのものが、芸術とりわけ美術における創造性と美を求める環境にありながらも、デザインの計画性や分析的プロセス思考、また他者から見られ、それに応答していく社会的実践性は、造形・情報生成の基本として独自に一層重視せねばならないと認識している。学校という環境をデザインすることを通じて、本学科の教育・研究成果を社会に広げていくために教職課程を設置した。デザイン主体の形成として思春期・青年期の中学生・高校生に伝えることに社会的意義があり、教科で考えてみると、美術と工芸に対応するのでこの免許種を設置した。絶え間なく変動する社会の中で、上記のようなデザイン独自の思考や実践を、美術・工芸教育の中に反映させることができる教員の養成を目指す。

具体的には、国内外の社会におけるデザインの将来的貢献に向けて、この基本的思考に裏づけられた教育研究環境の実現を図り、モダンデザインに端を発する思想や方法論を、発展的・批判的に継承し、人々の持続的な環境形成に寄与する倫理的責任主体を教育することを理念としている。教員養成に関しても、エコロジカル、サステナブルな社会の在り方を目指し、人と社会を繋いで結ぶことにおいて、持続的幸福や、その環境の創造に貢献できる人間を輩出することができるように力を尽くす。また、このようなデザイン的な思考が潜在的には、美術教育だけにおけるものではなく、日常生活における生徒個人々の気づきから、学級運営等も含めた人間社会の構築にまでに及ぶ教育全体に対する包括的な影響を有していることを意識化できるように教育内容や教育環境を整備する。

● 人間発達学部子ども発達学科（幼一種免・小一種免）

建学の精神〈至誠奉仕〉は、平和で民主的、文化的な国家・社会を形成するために、子どもの教育が決定的に重要だと認識のもと、それを教育者の養成で実現しようとする方向性をもっている。本学科は、教員養成を主たる目的とする学科として、その精神に基づいて、幼・小の教員養成課程（および保育士養成課程）を置いている。本学科のディプロマポリシーは「保育・教育の理論とスキルを学び、実習等の経験を積み上げ、芸術的感性を備え、教育・福祉の両面で、子どもの成長・発達を支える力を獲得したものに学位（教育学）を授ける」ことであり、教員養成理念と一体である。【幼一種免】設置については、本学附属のクレエ幼稚園と実習や授業を通じた連携を図ることで、子どもを発達的に深くとらえつつ、とりわけ製作・芸術活動などで実践的に子どもとの活動を展開することができる教員を養成する。【小一種免】設置については、「学力」を深くとらえ直し、生活全体を視野に入れ、地域や保護者と協力して教育にあたる教員を養成する。幼・小の2課程を置くのは、発達や学びの連続性をふまえて、多様な人たちと係わることのできる教員の養成をはかるためであり、またほかの芸術系3学部との協力・融合をすすめることで、さらに芸術を中心とする豊かな人間性と教育力をもった教員を養成することに基いている。